

平成 19 年 3 月 8 日
北関東・東京合同準備フォーラム
於：湯島聖堂

中斎塾合同準備フォーラム 第 8 回講話

最初に素読の体験を致します。

福田代表幹事の創立記念式典での論語の素読です。

(素読)

素読をしていると、背筋が何となく伸びてくるものです。

頭の中からするするっと糸が出て、天に向かって伸びるにつれて背筋が伸びていく、そういうイメージをもたれると良いでしょう。

単純に身体だけを伸ばすというように考えたのでは、一過性です。

背筋をピンとするだけでなく、自分で意識して、天地自然・雲の上の方に自分が吊り上げられるような気持ちになっていると、その意思がずっと残っていて背筋がピンとします。

おもしろいもので背筋がぴんと伸びていますと、血液が隅々まで流れるような感じが致します。

そうすると頭も爽やかになりますし、お腹も減りますね。

健康に非常に良いと感じます。

これが素読の効用のひとつです。

本日の講話はまず「六中観」についてお話し致します。

忙中有閑・苦中有楽・死中有活・壺中有天・意中有人・腹中有書

このポイント・エキスは「書」です。

「書」は哲学という意味です。

人間には必ず哲学がなければならない。

自分が一生涯生きていく上でなさねばならぬ事は何か、それを追い求める学問が哲学です。

「私は何をすればよいか・・・」という事を考えて、考えて、考え抜く学問が哲学です。

その哲学を、「六中観」では「書」という言葉で表しています。

忙中有閑

今朝起きてここに来るまでの間、嘘をついたという自覚のある方はどれくらいおられますか？

では、今朝とても忙しくここへ出て来たという方はどれくらいおられますか？

ゆっくり時間に余裕を持って来られた方が多いようですね。

ゆっくりゆったりの方の場合は、リズムが出来上がっているから、その生活でよろしいと思います。

ご存知の通り、「忙中有閑」の「忙」は人が亡ぶと書きます。

忙しそうにしている人は心が亡ぶ。

物理的に忙しく飛び回りすぎている人、これも心が亡ぶ。

心が亡ぶとは、自分が自分でなくなるという事です。

物忘れが多くなるし、約束した事もついうっかりとなってしまう。

忙しい忙しいと動き回っている中で、どこかでふっと自分の時間、たとえ1分でも良いからふっと息をつく時間があれば、心の中が穏やかになるものです。

忙しく飛び回っているような時は、心が何となく穏やかになる時間を、意識的に作る事です。

「閑」とは、意識的にせわしいと思っている自分の心を、ほっと一息休ませる事です。

忙しくて擦り切れるように働いている人の顔というのは、やはりだんだんそういう顔になります。

1分でも2分でもいいから心のシャワーを浴びる、じっと瞑想にふけて心の中がずっと澄み渡ってくるような気持ちに、一瞬でもなれたら素晴らしいですね。

それを1日に1回、どこかで出来れば、1年経つと穏やかな良い顔になります。

「六中観」は、安岡正篤先生が人生を生きていく上でどうにもならない苦しい事や辛い事、悩み、そういったものを色々抱えて、それを乗り切る為に「六中観」を作り、時々眺めては自分の心を癒し、叱咤激励し、そして未来に向かっての活力を生ましていったと云います。

人生をいきいきと生きていく為の秘訣が、「六中観」の中に凝縮されています。

苦中有楽

今日本では、毎年3万人以上の自殺者が出ています。

自殺する人というのは、真正面しか見えません。

自殺者は“しがらみや借金から開放されて自分は楽になる”としか思わなくなるのだそう

です。

「苦」とは、自分が追い詰められて、死ぬ事が唯一の解決策だと思うくらいの苦しみです。

そういう場合には、どっぷりその中に浸かってみるのが必要ではあるけれども、本当に苦しんでどん底まで苦しみ抜いたなら、必ずそこに光が見えてきます。

光が見える人と見えない人の違いは、一つだけあります。

自分が信頼できるものがあるかどうかです。

自分が信頼できるものがあれば、それが救いになり、光になって自殺を思い留まらせてくれる。

これは友人であったり、書物であったり、師匠であったり、家族であったり、その本人にとっての光は色々あるけれども、その光が見える人は苦しみの中から楽しみを発見することが出来ます。

苦しい時には、自分の心の中に何か一つ心が温くなるようなものを常日頃から持っている努力をしておけば、必ず光が出ます。

何か光が一つあれば、同じ苦しみの中でも人生ががらっと変わります。

そういう中で、自分がその光を見て「これだ」と思った時には、必ず他の人にも光を上げはじめることが出来るのです。

死中有活

よく「死んだつもりでやる」と言いますが、本当に死ぬことは出来ません。

「これで死ぬのかもしれない・・・」と思った時に、行動が変わってきます。

やはり無我夢中の方が、力が出るものです。

あなたは死ぬ覚悟がありますか？

もう死ぬしかないと思ったことがありますか？

死んでしまいそうだったことがありますか？

それによって自分自身が持っている潜在能力が一気に出るか出ないか、分かれ目がそこにあります。

壺中有天

朝から晩まで忙しく飛び回っていても、自分で意識的に自分の心を穏やかにして、その心が自分の一番楽しい事を考えればよいと思います。

私は朝会社に行って館野先生と道場で汗を流し、次に詩吟をするのですが、その時間が私にとって至福の時間です。

自分の至福の時間が取れば取れる程、どんどん表情が良くなってくる。

1日10分、または1週間のうち10分でも良い。

自分の心がどんどん浄化される、癒される時間を作れるかどうか。

その時間の中には、広々と広がる天地がある。

樂園があるとお考え下さい。

そういう時間が取れるかどうかで、その人の人生が豊かになるかならないかが決まってきます。

安岡先生はこの時間を一生懸命捻り出して作っていったのでしょうか。

だから心がどんどん豊かになったわけです。

意中有人

安岡先生が内閣総理大臣になった方に、こういう言い方をしたといいます。

「内閣総理大臣になったら、文部大臣は誰にする。厚生大臣は誰にする・・・皆それぞれの大臣を誰にするのだと腹の中に決めておかなければ、内閣総理大臣など受けられるものか」

総理大臣としての心構えを、この「意中有人」を使って諭したという話があります。

例えば新しい事業をする時に、“この分野は誰に頼もう”、“この部分は誰に頼もう”というものがどんどん頭の中に湧いて来る。

新しい仕事をする時には、自分の周りに適材適所の人材が頭の中に浮かんでくるような付き合いを、日頃からしていなければいけないということです。

腹中有書

自分の生き様は「こうありたい」、哲学を持っているかどうか。

この哲学は佐藤一斎の言志四録の中にも三つあります。

一、天地自然を師とする。

二、素晴らしい人格を持った人物を師とする。

三、心が打ち震えるほどの書物に出会う。

それらはすべてこの哲学「書」に直結します。

私は時間があると、「六中観」を呪文のように唱えています。

そうすると楽しくなってきます。

特にこの中で「死中有活」が好きです。

“いつ死んでもいいよ。いつ丸裸になってもいいよ。今あるもの全部、人さまにお出ししてもいいじゃないか。会社が潰れたら、又4畳半からスタートすればいいじゃないか”と常に思い続けています。

これは「得るは捨つるにあり」という言葉と通じます。

自分であれも欲しい、これも欲しいとやっていったら、大概欲しいものは手に入りません。

では陽明学の一言「知行合一」に参ります。

「知行合一」は、陽明学の重要な柱です。

「知るは行の始めにして、行は知るの成れるが也」と言います。

知っているつもりになっている事がたくさんあるという事です。

我々が「知行合一」を考える時は、ちょっと深く考えてみましょう。

知る、知識で知っている・・・もう少し深く掘ってみたらどうだろうか。

知っていると思っているものを深く深く考えると、そのうち阿頼耶識にぶつかります。

原点まで見えて来ればたいしたものです。

知っているというものを深く掘り下げていく時に、瞬間的にはっと目が覚めるような体験にぶつかった時は、知識が知恵に変わります。

知識は百科事典と同じですから、ただ説明しているだけで何の役にも立ちません。

単なる雑識にすぎません。

それを現実のことに活かせたら素晴らしい。

人さまのお役に立てるところまでいけば知恵に変わります。

知識と知恵は似て非なるものです。

頭の中だけで考えている時には、深く深く深く、何故何故何故・・・と掘り下げていけば、必ずコアにぶつかります。

知恵をそのように考えていくと、現実の世界で役に立たせるものが出来ます。

知っているという事をどんどん掘り下げて行って、行動に移れば素晴らしい。

行動に移らないで、「知っている」「思っている」だけで止まる人が、結構世の中には多いのです。

それは思いがまだ足りないからです。

行動に出ない「知りたい」という要求は、多分小さな要求だと思います。

「是非とも知りたい。何とかしたい」と思って、思って、思い抜いたら、必ず行動に移ります。

行動に移らない知識、欲はまだ本物ではないと思っています。

私はこの中斎塾の中で当たり前ものを当たり前に見る目、判断基準を是非皆様方にお持ち戴きたいと思っています。

例えば年金について考えてみると、日本の国がやっている事は、明らかに詐欺です。

お金を積み立てて貰う方式でスタートしたものが、いつの間にか賦課方式という名前に切り替わっていますから、これはおかしい。

どんどん年金の支払額はカットされ、その内もらえる年齢も引き上げられて、年金そのものを国は払わないようにしています。

民間の保険会社が同じ事をしたら犯罪です。

国というカモフラージュで、詐欺国家をごまかしている。

おかしい国だなと思います。

おかしい国だと思って戴ければ、判断基準として第一歩通過です。

日本がこういう事になっているから、他の国はどうなっているだろう・・・。

それを調べると横軸が広がります。

では、日本の国は詐欺をしたのだけれども、かつてそういう事をした事があったのかと調べ始めると縦軸が見えてくる。

両方とも調べだして自分なりに「これかな」と思ったら、お仲間と話をすれば良いと思います。

是非どうぞ自分のものを見る眼、判断基準を中斎塾フォーラムの中で話し合いながら身に付けて戴くと有難い。

本日は以上で終了させて戴きます。

有難うございました。